

メダカ (メダカ科)



学名：*Oryzias latipes*

別名：ペンペン、メザカなど

大きさ：全長 4 cm

特徴：小型の魚で、オスの臀びれは平行四辺形で大きく、メスは三角形に近くて小さい。体型はオスの方がメスよりも細い。産卵後のメスはしばらく腹に卵を付けており、その後水草などに産み付ける。暖かい季節には水面付近を群泳していることが多い。カダヤシ（右下写真）に似るが、尾びれが角張って臀びれ基底が長く、尾柄（尾びれの付け根部分）が低いことなどで区別可能。

国内の分布：本州以南琉球列島。近年は移殖により北海道にも分布。平地の池や湖、水田や水路に生息する。

県内の分布：県内各地の小川や池、沼などに生息していたが、現在は水質の悪化や開発等により消滅したところも多い。

県内での生態：牛久沼周辺の用水路での産卵期は4月中旬から8月頃である。また、塩分に対する耐性が強く、涸沼や利根川河口域でもしばしばメダカの群れが観察される。

備考：赤色の品種のメダカはヒメダカと呼ばれ、観賞用や実験生物に用いられる。一方、野生のメダカは黒メダカと呼ばれる。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に、茨城県版レッドデータブックでは希少種に選定されている。

主な文献：

霞ヶ浦情報センター研究委員会編（1994）霞ヶ浦の魚たち。霞ヶ浦情報センター，阿見町。167 pp.
小澤祥司（2000）メダカが消える日。岩波書店，東京。223 pp.

カダヤシ (カダヤシ科), *Gambusia affinis*



写真：カダヤシのメス。本種は卵胎生で、オスの臀びれは尖って交接器になっている。原産地はアメリカ合衆国，メキシコ。ボウフラ退治のために日本に導入され，国内各地に放流された。特定外来生物。